

8-10日 アスベスト使った水道管 毎日4キロ分、撤去を進める

市水道局

すみやかに進めるが、人体への影響を及ぼすことはいないと確信していると話している。

市水道局は七日開いた市会決算特別委員会で、発がん性の疑いで社会問題化している石綿（アスベスト）を使った水道管（石綿セメント管）が、市内に四ヶ残っており、撤去作業を進めていることを明らかにした。大気中の石綿は肺がんなどを引き起こす恐れがあると言われているが、水道局は「水道管に石綿を使うことはたまたに人体に影響するものではない」としている。

加沢幸治委員（共産）の質問に答えた。水道局によると、石綿セメント管は、石綿をセ

メントで固めたもので、鉄が不足した戦後から昭和三十五年ごろまで配水管（内径二五センチ）として敷設され、最大時の延長は約九〇キロ。しかし、材質がもろく、漏水や破裂の可能性があるため、順次、鉄管に取り換えている。

水中の石綿の人体への影響については、繊維数が一立方センチメートル中約七百万本を超えると障害がある、という米国の報告例があるが、日本では測定法自体が確立しておらず、日本水道協会（本部・東京）の専門グループが現在研究中。しかし、天然水に石綿が含まれていることが多いイギリスでは「人体への影響はない」という報告もあり、水道局は「撤去は